

生態系保全のために胎内ダムは必要ないと思う

石 沢 進

新潟日報の視点に掲載後、新潟県のダム関係者によって、ダムの必要性について説明して頂いたが、「胎内のダムがほんとに必要であるか」むしろ疑問が大きくなるばかりである。

ダムを建設する主な目的は

- 1) 水道水の確保
- 2) 発電
- 3) 洪水防止 とのことである。

1) については奥胎内からわざわざ導水するのに、長い水道管を敷設するのは、莫大な費用がかかり、また、村落周辺からの流水や地下水で十分対応できると思う。

2) については聞くところによると発電した電気を販売しても、採算が合わないという。むしろ県費を使って赤字であると聞く。

3) の洪水に伴う水害防止は配慮しなければならないことは理解できるが、集落から遠く離れた奥の渓谷に、建設後にも維持に経費のかかるダムの必要性は理解し難い。奥胎内の生態系を壊して洪水対策を行う前に、別な方法で防止策を考えることが妥当と考える。

再度、強調するが、

「胎内渓谷にダムを造り湛水することにより、生態系は完全に消失してしまうこと、長い間続いてきている自然の歴史を失うこと、その行為は後世に大きな禍根を残すこと等」決して善しとするものが何もない。

新潟県の自然に関わり、そのすぐれた自然の一端に関する知見を得た立場から、保全したい地域であり、何とか再考を願いたい。山奥の人に知られないところのできるダム計画だから、多くの方々に関心を持って頂く機会が少ないし、その実態を知らないでいることが多い。そのような状況であるから、事の重大性を多くの方に知って頂きたい。「一度破壊したら河川沿いの生態系は全てがなくなる」と悲痛な訴えを投げているので、是非、目を向けて頂きたい。県民の多くの方に同じような考えが広がると共にダム建設関係者にも深い理解を求めたい。

洪水防止の対策には、

- 1) 既存のダムの改変や整備、また浚渫を行うことで、ある程度の防止策の検討が必要である。

- 2) 既存のダムでの発電は取りやめ、湛水の貯水量を一部だけにして、洪水時の一時的な貯水槽の役割に改変する。
- 3) 富山県黒部川水系で行われている水田の一時的な貯水、や最近報道された「田んぼダムで洪水防止」などが考えられる。現在の土木工事で、ダムを造るより容易に対応ができると思う。
- 4) 「土砂災害に備えるハード対策」(PORTAL 2003 March No.022 3:026-027) として、新たなダムの建設の例が報告されている。奥胎内では、そこに掲載されたダムでは適当でないとい掃しないで、奥胎内のダムも水を停滞させない方法の模索が必要である。新しい試みに県独自の挑戦を行い、生態系を守る模索を展開してほしい。

上記 1) と 2) に関連して付け加えると、洪水防止のために、これから造るダムが絶対に必要であるとの結論を出す前にさまざまな検討をお願いしたい。例えば胎内ダム建設に関する検討委員会を開催したとのことであるが、その是非について十分な検討がなされていないとも聞く。穴開けダムの指摘をしたのに、その可能性の検討は全くしていない。胎内では構造上から無理とし、一笑に付して話題にも提出していない。一般公開で再度の委員会で、生態系の破壊につながることを十分に考えた上で、なおダムの必要性についての再検討が必要であろう。

また、奥胎内ダムを建設する以外に道なしと考えるのは、納得できない。奥胎内ダムが土砂で満杯になった100年後には、どうなるのか。再びその奥にダムを作ることになるのだろうか。新しいダムを作るのではなく、既存のダムを目的に応じて改変することも必要であろう。現在のダムの堆積量は30%であるという。それならば、洪水対策だけを目指すならば、極論かも知れないが、次のようなことも可能であろう。赤字であるという発電は中止して現在の湛水をすべて排水し、洪水時に備える。それで不足ならば、これまでダムに堆積した土砂の運びだしを進める。新しいダムを作るよりは、はるかに安くて洪水対策ができるように思う。

奥胎内ダムは、長い間検討を経て、着工の可否を委員会によって決定したというが、その後の社会情勢の変化に伴ったダムの在り方を再検討しても何の障害もないと考える。しかし、今回のダムの建設は長い間の検討で結論を出した

佐梨川ダム計画中止

県電発撤退で負担増

電源開発の湯之谷揚水発電計画の一部となっていた。県営佐梨川ダム(北島湯之谷村)について、県は十三日、建設費の約六割を負担する予定だった電発の撤退で、投資効果が見込めなくなったことを受けて中止を決定した。同ダムは治水などを目的としたものだったが、県では今後の地元の治水対策を河川改修に切り替える方針で、地元にも理解を求めた。

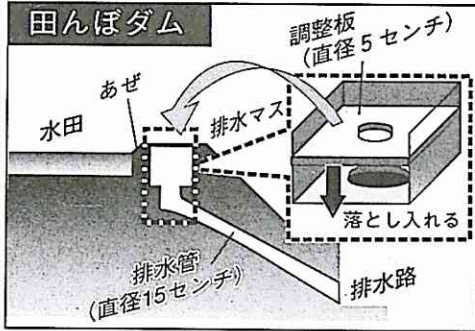
○一年九月に電発が電力需要低迷を理由に撤退を表明してから、県は「単独建設」か「事業撤退」かの検討を続けてきた。県は湯之谷村など関係する地元三町村が電発の撤退に伴い同社に求めた「協力金」支払いについて近く正式合意が得られる見通しとなったため、中止決定に踏み切った。

【湯之谷揚水発電計画】湯之谷村の星野村長は「住民の生命と財産を守る重要な事業だけに中止は残念だ。今後はダムに代わる対策をしっかりと実行してほしい」と話している。

【湯之谷揚水発電計画】湯之谷村の星野村長は「住民の生命と財産を守る重要な事業だけに中止は残念だ。今後はダムに代わる対策をしっかりと実行してほしい」と話している。

排水抑え下流の水量調節

田んぼダムで洪水対策



県と岩船神林村は、雨を水田にためて下流域での洪水被害を減らす全園初の「田んぼダム」実験を2003年度からスタートさせる。県農地部は「県内外に波及するシステムになれば」と期待を寄せている。

この実験は、水田に備わっている排水路の排水管の入り口に、管より狭い直径約五センチの穴を開け、調整板を取り付け、調整板を調節して、排水量を調節する。調整板は、地盤隆起や土壌沈下によって、排水路の排水量が減少するのを防ぐ。調整板は、地盤隆起や土壌沈下によって、排水路の排水量が減少するのを防ぐ。

同村の水田約一千畝のうち三百五十畝が対象となる。同村の水田約一千畝のうち三百五十畝が対象となる。同村の水田約一千畝のうち三百五十畝が対象となる。

雨前までにはすべて取り付けられる。村産業者は「あぜの高さは三十センチあるため、雨が水につかる心配はない。稲の背が低い時期に大雨が来ても、二日以内に水を落とせば大丈夫」と説明。「上流域と下流域の住民が水の問題について考えるきっかけになってほしい」と話している。

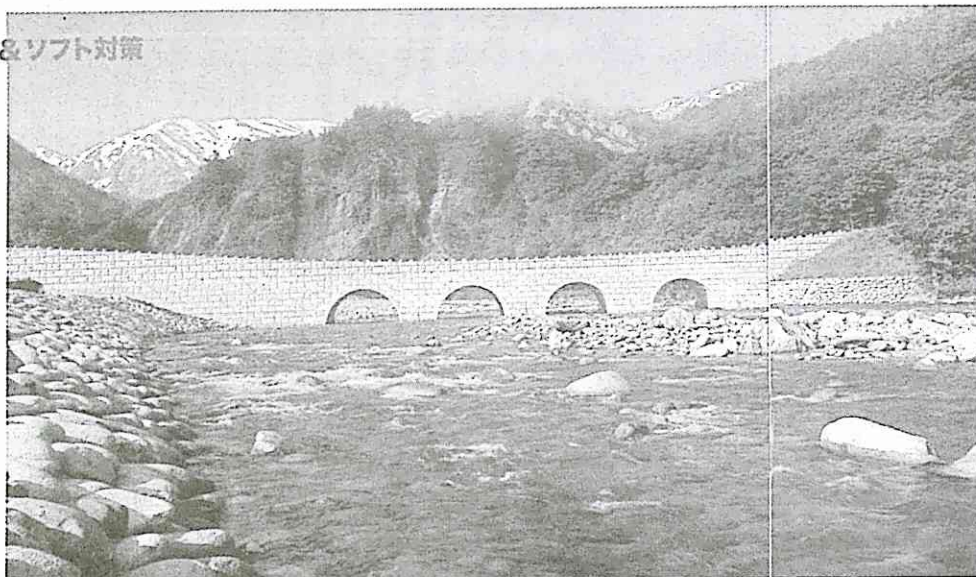
雨前までにはすべて取り付けられる。村産業者は「あぜの高さは三十センチあるため、雨が水につかる心配はない。稲の背が低い時期に大雨が来ても、二日以内に水を落とせば大丈夫」と説明。「上流域と下流域の住民が水の問題について考えるきっかけになってほしい」と話している。

土砂・火山・雪崩災害に備えるハード&ソフト対策

土砂災害に備える ハード対策

土砂災害の発生を未然に防ぐため、土石流などが発生しやすい山地溪流においては、溪流から流れ出た土石流や流木を捕捉する砂防堰堤が建設されている。また、溪流の勾配を緩やかにする床固め工や溪流の浸食・崩壊を防ぐ護岸工などにより、溪流の保全が進められているほか、溪畔林や樹林帯などの整備も進められている。

五川スーパー暗渠砂防堰堤(山形県小国町)。アーチ型のスーパー暗渠が4門設置されており、下流への適正な土砂の供給を可能にしている



新時代の砂防堰堤

砂防堰堤は、溪流へと流れ出た山腹の崩壊土砂や流木、川底の石などを含んだ土石流を直接受け止めて災害を防ぐ砂防施設である。近年は、こうした防災機能を確保しつつ、下流への適正な土砂の供給が可能な新しいタイプの堰堤として、スーパー暗渠砂防堰堤やスリット式砂防堰堤、格子型砂防堰堤などが建設されている。また、既設のいわゆる重力式コンクリート砂防堰堤についても、河川の自然環境再生のため、堰堤の一部を除去、スリット化するなど、下流へ土砂を供給できるような堰堤への改良が行われている。

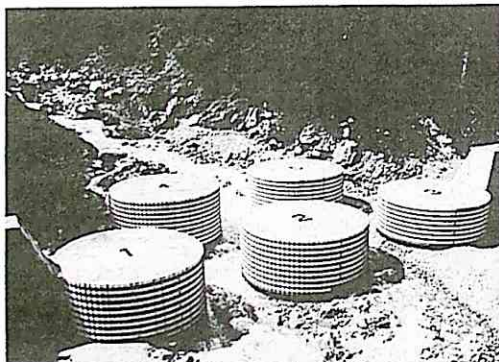
自然環境や景観に配慮して

自然環境への関心が高まる中、土砂災害対策のための施設についても、周辺の自然環境の保全や景観に配慮して整備が進められている。堰堤や溪流護岸には土留めのための石積み工に現地の自然石が利用され、堰堤の型枠に地域産の間伐材が活用されるなど、山間の緑豊かな景観に溶け込んだ砂防施設となっている。また、溪流沿いの樹木を極力残し、溪流には水生生物が生息しやすい河床を整備。イワナやヤマメなどの湖上可能な魚道も設けられ、生態系に配慮した整備が進められている。

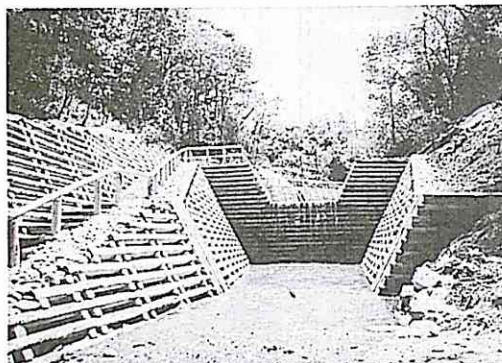
安全で緑豊かな斜面づくり

地滑りは融雪期や豪雨時に多く発生し、地下水の変動と密接な関係にあり、その防災対策は、地下水を排除する暗渠や排水トンネル、集水井[*1]などの地下施設設置や、不安定土壌の排除などが主となる。こうした対策により安定化した地滑り地は、緑地公園やスポーツ施設などとしての活用が図られている。現在、国土交通省では、地滑りの規模が大きく、発生した場合には広域での被害が予想される亀の瀬(大阪府・奈良県)や譲原(群馬県)など全国13カ所の地滑り危険箇所において直轄地滑り対策事業を実施している。

環境との調和を目指す砂防施設



与田切鋼製セル群ダム(長野県飯島町)。現地で発生した土砂を詰めた円筒形の構造物(セル)を配置することで、魚の湖上も可能になった



岩手山焼走り床固め工群(岩手県西根町・二双沢)。近隣の岩手町にあるカラ松林10ha分の間伐材を活用して造られた

PORTAL ポータル 026 March3, No.022 (2003)

ダムに関する情報提供のお願い

特に人的な影響の少ない自然状態にある生態系を破壊して建設しているダムの例があったら教えて下さい。

その他奥胎内ダムの建設に反対する意見、コメントなど寄せて頂ければ幸いです。(匿名でも結構です。)